

中世

武士の台頭、鎌倉幕府の成立、戦国時代の幕開けなど激動の時代を生きた、中世の所沢の人々。今もお地域に残る伝承や遺跡など、数多くの歴史の痕跡が残された時代でもあります。



30回を超える 激しい戦い！

小手指ヶ原古戦場

鎌倉時代

鎌倉時代末期、各地で倒幕の動きが激しさを増すなか、所沢でも鎌倉街道沿いの小手指ヶ原を中心に激しい戦いが繰り広げられました。その中心にいた新田義貞の兵力は当初150騎ほどでしたが、足利氏らの援軍もあり、20万騎の大軍勢に！幕府軍と激突した小手指ヶ原では30回余りに及ぶ戦の末、新田軍は鎌倉

へ向けて徐々に進軍し、初戦の11日後に鎌倉幕府は滅びました。

小手指ヶ原周辺には、新田義貞が源氏の白旗を立てた「白旗塚」、倒幕を誓った場所「誓詞橋」、長久寺（久米）の南の柳瀬川に架かり、新田軍が勢揃いした「勢揃橋」など、新田軍にまつわる伝承が残る史跡が点在しています。

所沢をって、いざ鎌倉へ

鎌倉時代、人々が各地から鎌倉へ向かい、主要な道が「鎌倉街道」になっていきました。所沢をっていた街道は「上つ道」と呼ばれ、その道沿いには歴史的な文化財や伝承が多く残されています。

西富小学校前や所沢中学校前など、街道沿いには目印となる標柱や説明板が設置されています。散歩をしながら、当時の人々の足取りを追ってみると新しい発見があるかも♪

所沢をって鎌倉へ…昔の人はすごい距離を歩いたんだね！



▲合戦の火蓋が切られた小手指ヶ原古戦場に建つ石碑 (撮影：山畑寿雄さん)

地の利を生かした 天然の要塞

滝の城跡

戦国時代

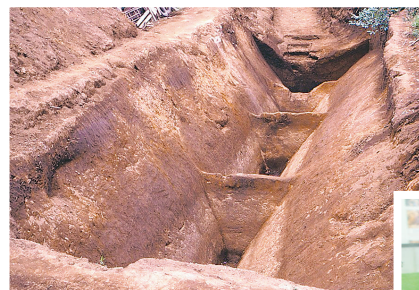
市内に残る中世の城跡で最も規模が大きいのが「滝の城跡」。戦国時代に大石氏が築いたといわれ、のちに北条氏が持ち城にしました。川越や岩槻方面への伝達・防衛拠点として重要な役割を担っていた城跡は、県の指定史跡にもなっています。

南に流れる柳瀬川に沿って、高さ

20mの崖が敵の侵入を防ぐことに適していたことから、この場所に築城を決めた先人たちの知恵が詰まった滝の城。堅い守りを誇っていましたが、天正18年、豊臣秀吉の小田原攻めの際に、北側からの攻撃を受け、1日で落城したと伝わります。



滝の城跡



▲敵の進行を妨害する障子堀

▲現在、史跡周辺は緑や滝の城址公園が広がり、市民の憩いの場に



▶ 滝の城跡保存会の皆さんが制作した滝の城復元模型図

戦国時代にタイムスリップ！戦国滝の城まつり

例年5月に行われる「戦国滝の城まつり」では、甲冑に身を包んだ武者行列や大迫力の合戦絵巻を間近で見ることができます。力強い太鼓の音や立ち込める土煙は、まるで戦国時代にタイムスリップしたかのよう！



歴史クイズ

新田義貞が倒幕を誓った場所は？

誓○が橋

3面のクイズの答えとつなげて 15面のクロスワードのカギを解こう！